

市民活動団体の 公共施設等の利用傾向

● 調査のコンセプト

市内の市民活動支援拠点・機能の利用実態に関する調査結果から

川崎市内で活動する市民活動団体の約4割が事務所を持たず活動しています。その約8割は公共施設で会合や打合せをしており(平成21年度同調査結果より)、市民活動の育ちを川崎市全体で支えるにあたり、「場」の支援は重要な取組みのひとつと考えます。

川崎市では、市民活動を推進する体制として、既存の出資法人や公共施設を活用すること、また、全市・区・地域の3つのタイプの拠点を整備し、それぞれの関係の中で機能分担を図ることとしています。

将来、川崎市全体で市民活動の育ちをより有効に進めていくために、日頃利用している公共施設等にはどのような機能が備わることが望ましいのでしょうか。また、その際に全市、各区、地域ごとに、どう役割を分担すべきなのでしょう。

平成22年度は、この点に着目し、市民活動団体が、施設や支援内容をどのように利用し、また重視しているかを調査しました。その際、支援拠点である施設を全市・各区・地域で区分し、市内を活動地域とする市民活動団体が日頃利用している施設を「支援拠点」として定義しました(右図)。

- **調査対象** 461団体
※ 当センターに利用登録しており、活動地域が明確な市民活動団体
- **調査方法** 郵送によるアンケート調査
- **調査期間** 平成22年11月4日～11月19日
- **有効回答数** 163団体(35.4%)

- **全市の拠点** ・(公財)かわさき市民活動センター
・(社福)川崎市社会福祉協議会(市社協)
- **各区の拠点** ・各区の市民活動支援拠点
・市内各市民館・分館
・各区社会福祉協議会(各区社協)
・幸市民協働プラザ
・中原区区民交流センター「なかはらつぱ」
・麻生市民交流館「やまゆり」
・有馬・野川生涯学習支援施設「アリーノ」
- **地域の拠点** ・各区のこども文化センター(55館)

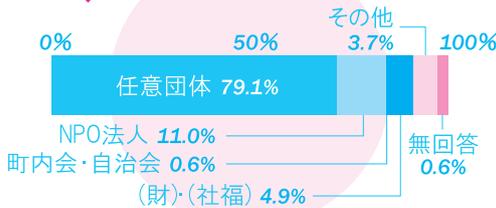
● 調査結果

● 調査の活用

- ・回答者の属性については、市民活動団体(以下「団体」)のうち中心メンバーの年代は60代が最も多くなっています(41.7%)。
- ・活動メンバーは、定年退職者(26.4%)や専業主婦/主夫(28.8%)が中心となっています。
- ・活動対象地域は、川崎市全域が最も多く(51.5%)、次いで中原区となっています(32.5%)〔※1〕。
- ・団体の4割弱(37.4%)が年間予算10万円未満です。過半数(55.2%)の団体が、予算規模30万円未満となっています。

〔※1〕 この調査はセンター利用登録団体のうち、活動地域が明確な団体を調査対象としたため、一部の回答においては、川崎市全域及び中原区を主たる活動地域とする団体に回答が集中しています。
各施設でこのような調査を実施し、比較することで地域特性や各施設の機能分担が明確になっていくことを願ってやみません。調査実施をご希望の施設がありましたら当センターまでご相談ください。

Q 団体の種別



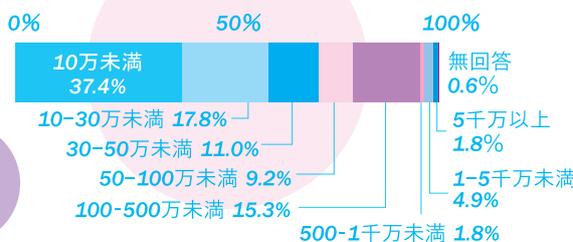
Q 活動分野 TOP3 ※複数回答

- 1 社会教育・生涯学習の推進 24.5%
- 2 子どもの健全育成 22.7%
- 3 学術・文化・芸術の振興 20.9%

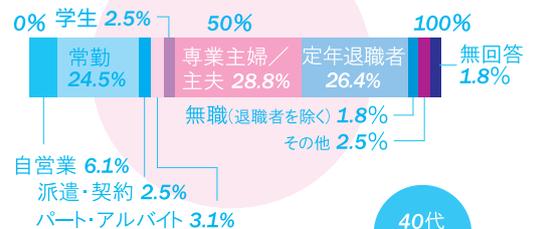
回答者の属性

(N=163)

Q 年間活動予算 (2010年度)



Q 中心メンバーの職業

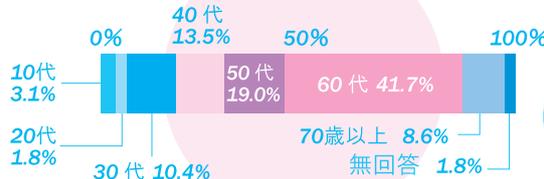


Q 活動地域(活動している区)

※複数回答

川崎市全域	51.5%	多摩区	10.4%
川崎市	3.1%	麻生区	11.0%
幸区	6.1%	神奈川県内	26.4%
中原区	32.5%	神奈川県外	17.2%
高津区	16.0%	無回答	0.0%
宮前区	4.9%		

Q 中心メンバーの年代



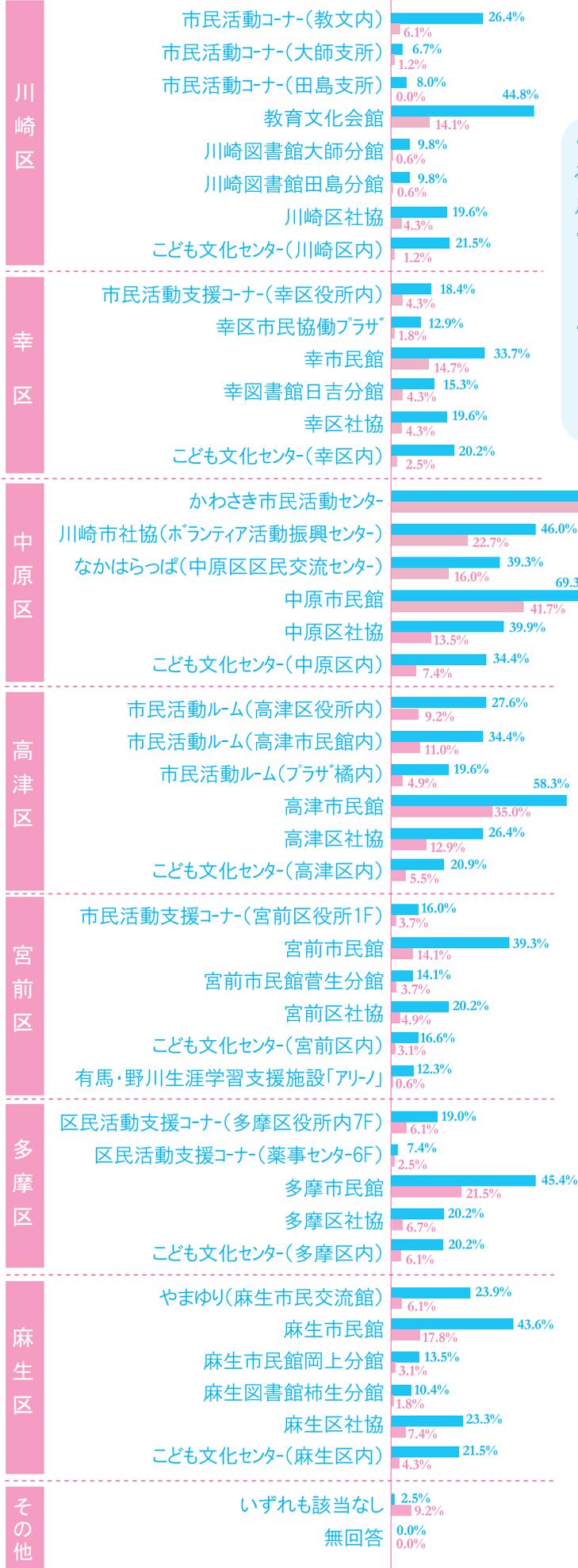
※区ごとの状況は一番割合の高い項目を掲載しています。

Q 次の施設を知っていますか？また、実際に利用していますか？

市内の市民活動支援施設の

周知度と 利用経験

(N=163、複数回答)



・施設の周知度は、かわさき市民活動センター(以下「センター」という)を知る団体が最も高く(80.4%)、中原市民館(69.3%)、高津市民館(58.3%)、川崎市社協(46.0%)と続きます【※1】。

・周知度甚至比実際の利用度は低い傾向にあります。中でもセンターの利用割合は最も高く(66.3%)、中原市民館(41.7%)、高津市民館(35.0%)、川崎市社協(22.0%)と続きます【※1】。

・川崎市全域、神奈川県内、神奈川県外など、活動地域が広域である団体は、全市拠点であるセンターを利用する傾向にあります。

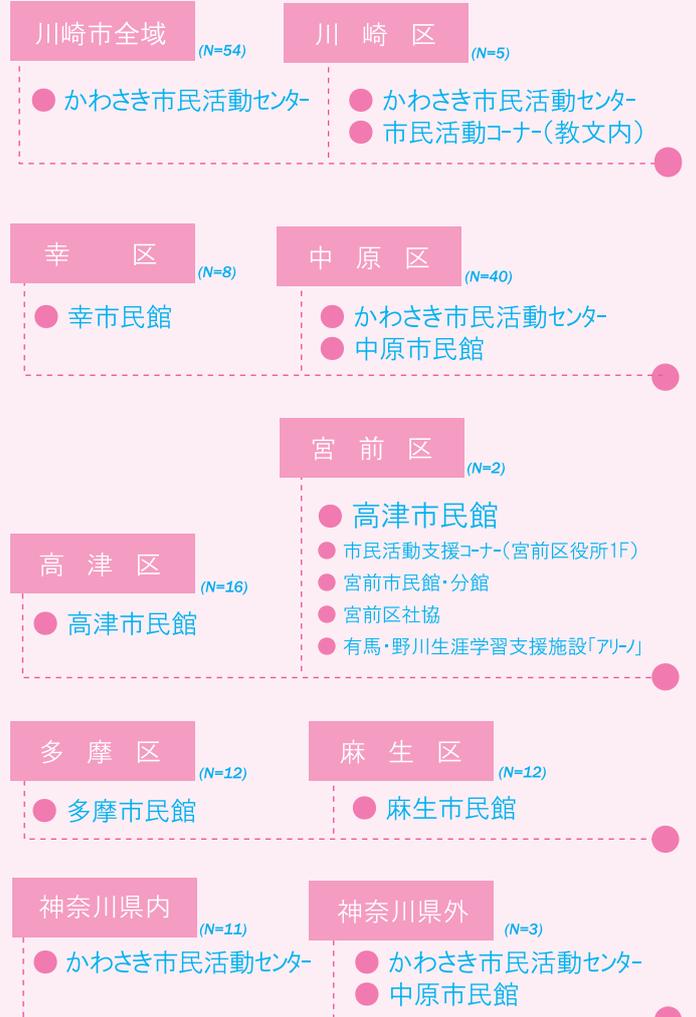
・他方、各区を対象に活動している団体は、市民館を利用する傾向にあります。

【※1】 この調査はセンター利用登録団体のうち、活動地域が明確な団体を調査対象としたため、川崎市全域及び中原区を主たる活動地域とする団体に回答が集中し、このような回答傾向が生じたことも考えられます。

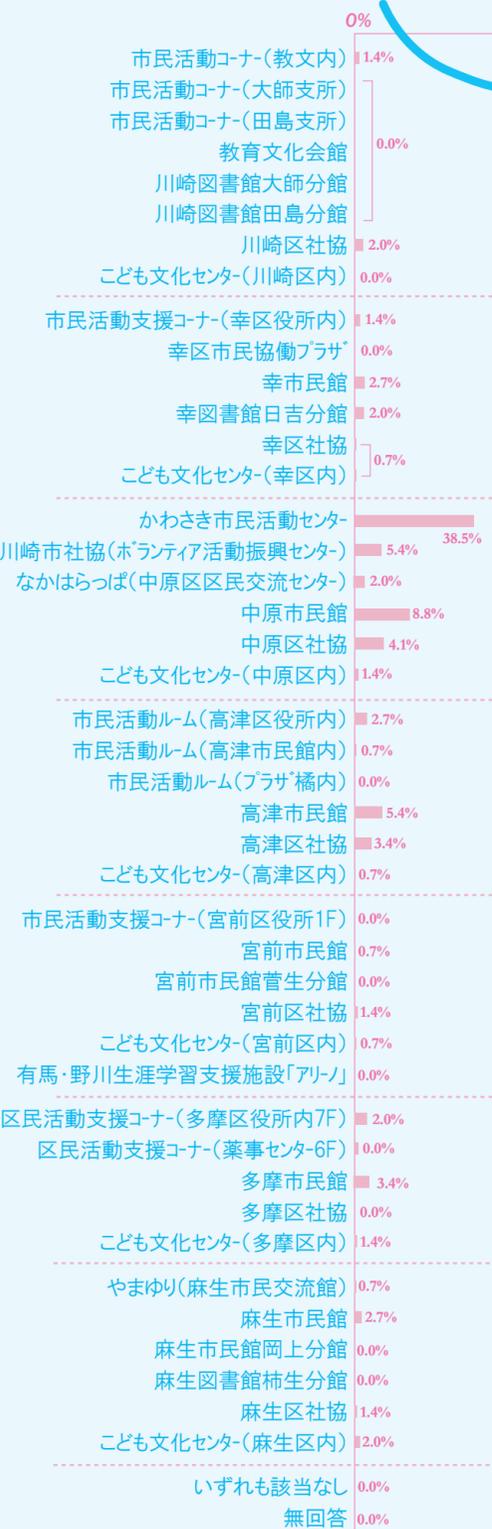
Q どの施設を一番利用していますか？

(N=163、複数回答)

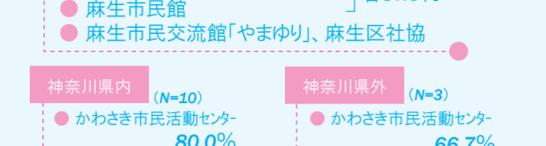
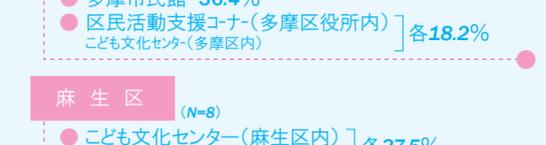
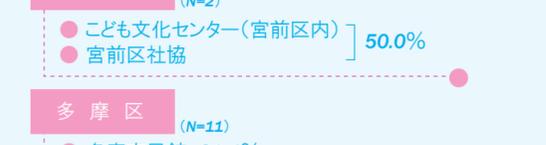
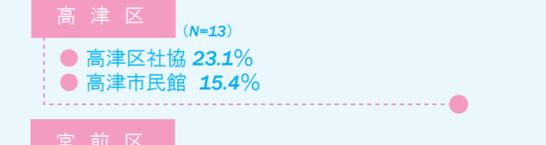
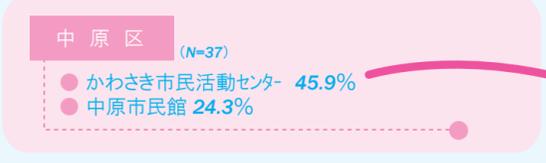
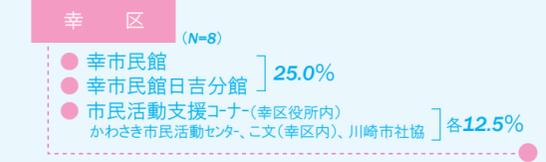
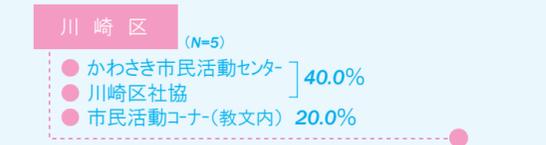
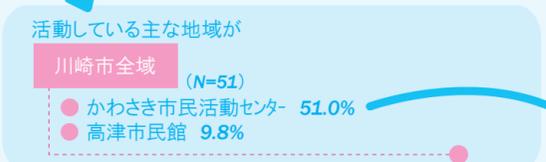
活動している主な地域が



■ この3年間で一番よく利用した施設は？
※施設を一か所でも利用したことのある団体を対象 (N=148)



活動地域別に上位を見てみると...



3年間の利用傾向を
見てみると...

・過去3年間の利用状況は、センターが割合として最も高く、38.5%となっています。次いで中原市民館(8.8%)、川崎市社協及び高津市民館(5.4%)と続きます。
・活動地域別にみると、活動対象が広域な団体は全市拠点であるセンターを利用する傾向にあり、地域では市民館を利用する傾向があります。

・川崎市全域を活動地域としている団体は、約9割の団体が電車、5割が自転車を主な交通手段とし、センターを利用しています。
・月1回程度、施設を利用しているようです。
・約7割の団体が会議室・研修室、5割の団体がそれ以外の打合せスペースの利用を主な理由に挙げています。
・料金が安い・無料であることも、約6割の団体が利用する理由として掲げています。

・センターがある中原区を活動地域としている団体は、徒歩を第一の交通手段としています(58.8%)。自転車や電車も5.9ポイント低い52.9%の人が利用する傾向にあるようです。
・利用頻度としては、月に2,3回利用している団体が約5割と最も多い傾向にあります。
・全市拠点と同様、会議室・研修室が約6割、約5割がそれ以外の打合せスペースの利用を目的として利用しています。

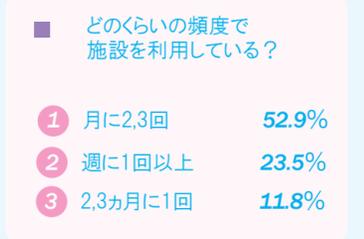
支援拠点を利用していない団体

・163団体中、支援施設を利用していない団体は15団体(9.2%)でした。
・利用していない理由としては、この調査で定義した支援施設以外の場を利用していると答えた団体が100%でした。
・主に利用している場所としては、公共施設(33.3%)であり、公共施設として具体的には、川崎市共同参画センター、川崎市生涯学習プラザ、川崎市総合自治会館、川崎市産業振興会館、川崎市柿生学園などが挙がっています。
・その他利用していない理由としては2割の団体メンバー宅及び活動地域から遠いことを挙げています。

川崎市全域を主な活動地域としている団体は かわさき市民活動センターをどんなふうにご利用していますか？



中原区を主な活動地域としている団体は かわさき市民活動センターをどんなふうにご利用していますか？



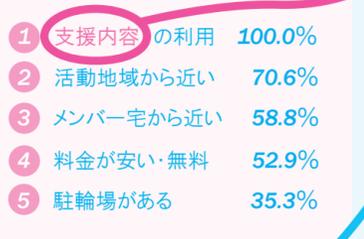
どのような理由で施設を利用している？ (複数回答)



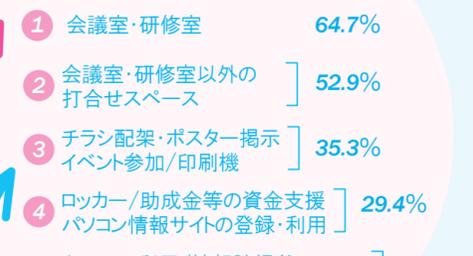
施設で利用している支援内容を教えてください。(複数回答)



どのような理由で施設を利用している？ (複数回答)

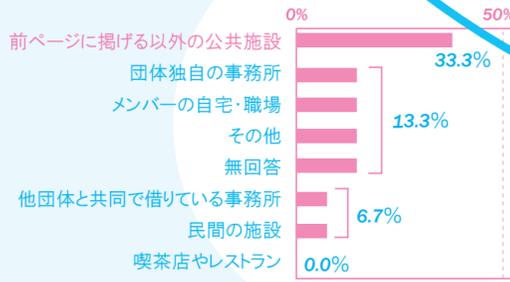


施設で利用している支援内容を教えてください。(複数回答)



・チラシの配架・ポスターの掲示は、区レベルを活動対象としている地域の方が順位が高い傾向にあるようです。

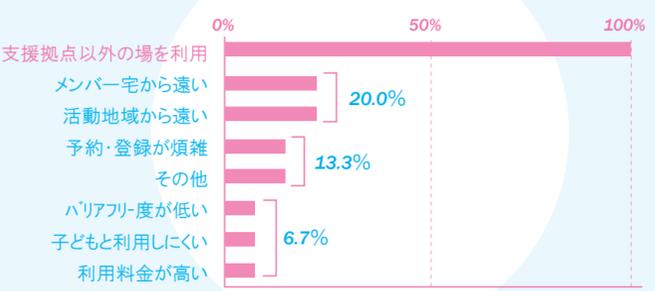
主に利用している場所はどこですか？ (N=15)



実際に利用している施設(2ヵ所まで)

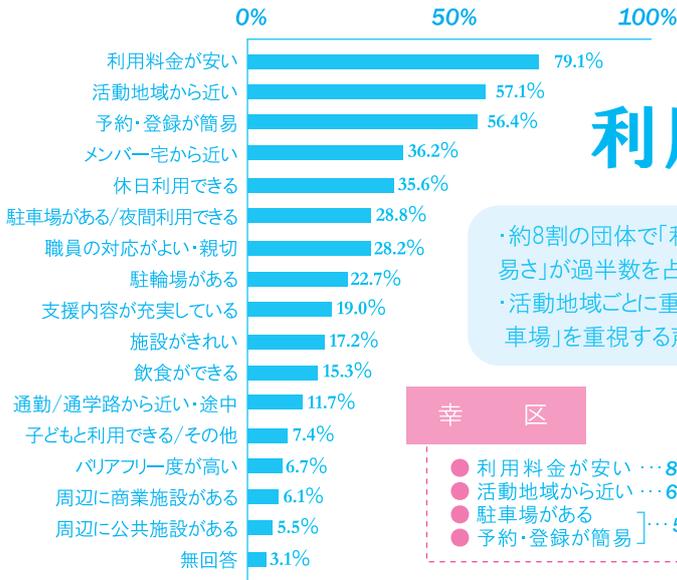
- 【公共施設】
 - 川崎市男女共同参画センター
 - 川崎市生涯学習プラザ
 - 川崎市総合自治会館
 - 川崎市柿生学園
 - 川崎市産業振興会館
 - かながわ県民センター
 - かながわ労働プラザ
- 【民間の施設】
 - マンションのコミュニティルーム
- 【その他】
 - 町内会館
 - 里山(保全緑地)

支援施設を利用していないのはなぜですか？ (N=15、複数回答)



Q 利用しやすさにおいて何を重視しますか？

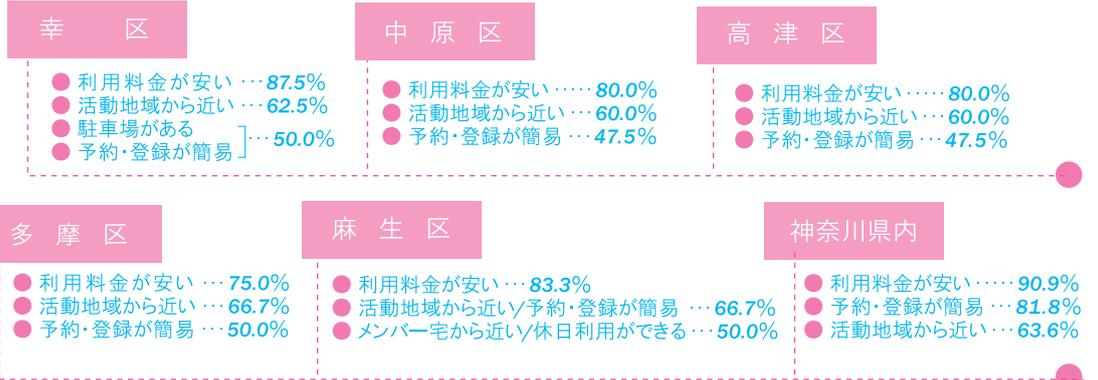
(N=163,複数回答)



利用しやすさにおいて重視する点

※上位3番目までを掲載

・約8割の団体で「利用料金の安さ」を重視しています。次いで「活動地域からの近さ」「予約・登録が簡易さ」が過半数を占めています。「支援内容の充実」は19.0%となっています。
 ・活動地域ごとに重視する点の差異は、宮前区及び県外といった広域を活動地域としている団体に「駐車場」を重視する声がある以外は、差はあまり見られないようです。



充実を希望する支援

※上位2番目までを掲載

・全体では、「会議室・研修室」の充実が最も割合が高く、約6割を占めています。次いで「印刷室」(43.6%)、「会議室・研修室以外の打合せスペース」(32.5%)と、場所に係る支援の充実が続きます。また、場の支援以外では、情報及び資金に関する支援が3割前後で続きます。
 ・活動地域別でも、全般的に場に対する支援の充実、情報発信に係る支援が上位を占めます。

Q 施設にどのような支援の充実を希望しますか？

(N=163,複数回答)

